

2.2 出水断層帯

2.2.1 基本方針

九州活構造研究会(1989)では、出水断層帯は、熊本県水俣市湯出南方から、鹿児島県出水市宇都野々、高尾野町内木場、野田町尾ヶ無を経て、阿久根市鶴川付近まで延びるとされており、活動度B～C級、確実度Ⅰ～Ⅱの活断層と評価されている。

しかしながら、この断層の存在の確実性、活動性については様々な見解があり、地震災害をもたらす起震断層としての評価は固まっていない。

今回は、出水断層帯の起震断層としての評価を行うために、まず、予備調査として、出水断層帯に関する地形・地質の基礎資料を収集して、活断層としての可能性の有無、その位置・長さ、活動性等についての検討を行うこと、さらに、次期調査計画を立案することを目的として調査を行った。

2.2.2 調査項目

上記の目的を達するために、今回は地形地質調査として文献調査、空中写真判読、地表地質踏査（概査）を行った。

(1) 文献調査

調査対象地域について、地形・地質・地震等に関する情報をあらかじめ把握し、以降の調査を適切に進めるため、既往の文献・資料等の収集、検討、整理を行った。

(2) 空中写真判読

調査対象地域について、縮尺1/10,000～40,000程度の空中写真を使用して、主にリニアメント、変位地形、段丘面等の判読・分類および活断層としてのランク分けを行い、以後の調査の実施個所選定等の基礎資料とした。

なお、空中写真判読は、地表地質踏査の進展にあわせてその都度見直しを行った。これらの結果は、縮尺1/25,000の空中写真判読結果図として示した。

(3) 地表地質踏査（概査）

(1)と(2)の結果に基づき、活断層の可能性のあるリニアメントに沿って地表地質踏査を実施し、断層や変位地形および地質分布の把握に努め、活断層としての可能性やその詳細な位置、長さおよび活動性の評価を行うための資料を得るとともに、次期調査としてのトレンチ調査・ボーリング調査等の位置選定を行った。

また、これらの結果は、縮尺1/5,000のルートマップおよび1/25,000の地質図として示すとともに、重要露頭についてはスケッチ、写真撮影およびサンプリングを行い、地層対比および年代決定のために代表サンプルの火山灰分析も行った。

(4) 解 析

(1)～(3)の結果をもとに、断層の有無・活動性・詳細な位置と長さ等について検討した。また、あわせて次期調査の計画立案を行った。

2.2.3 調査数量

調査数量を表2.2.3-1に示す。

表 2.2.3-1 調査数量（出水断層帯）

調査内容 調査対象	文献調査 (文 献)	空中写真判読 (km ²)	地表地質踏査 (概 査) (km ²)
出水断層帯	20	44 (出水断層帯周辺 とあわせた数量)	22

2.2.4 調査範囲

調査範囲を図2.2.4-1に示す。

2.2.5 調査フロー

今回の調査フロー図を図 2.2.5-1に示す。

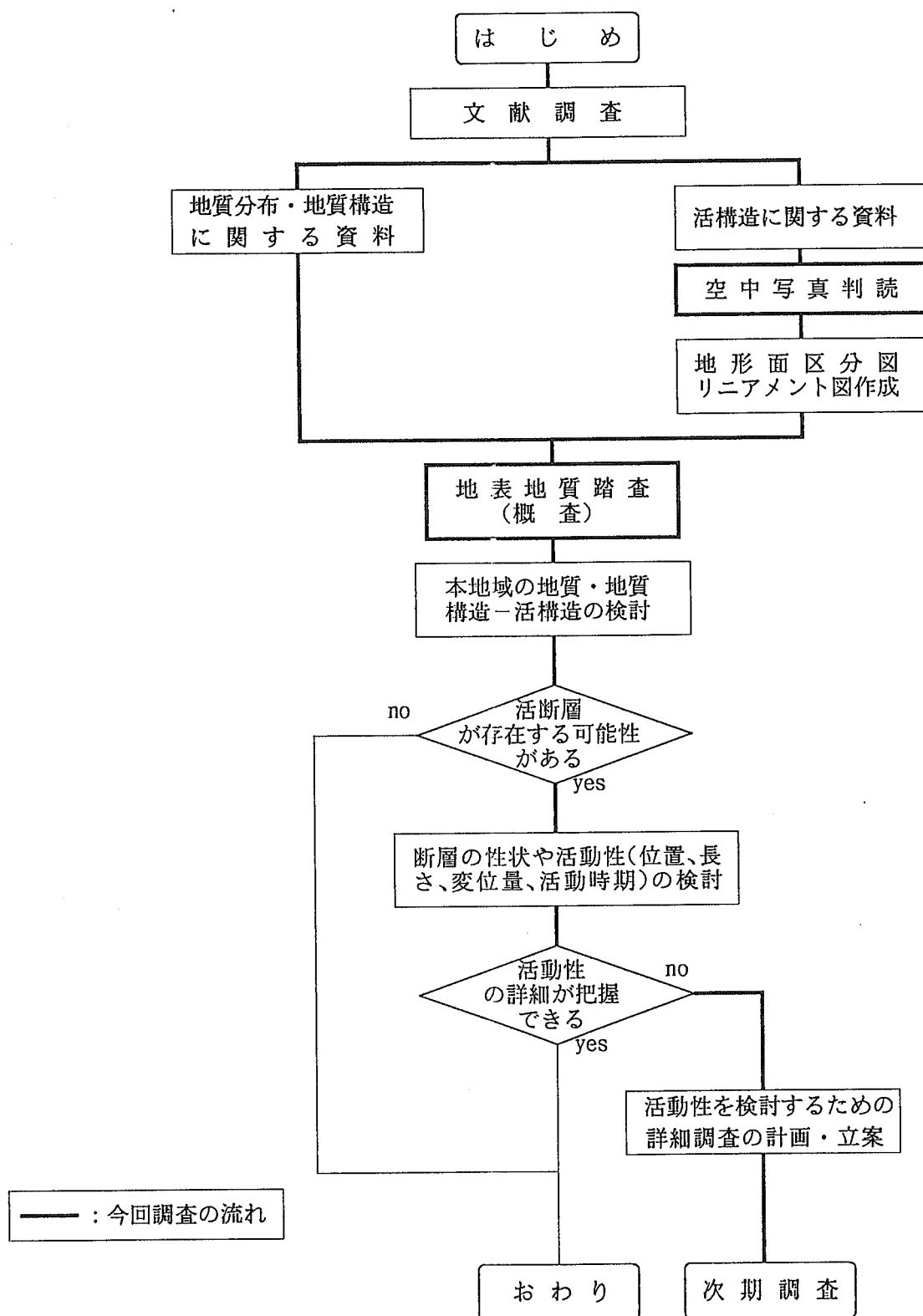


図 2.2.5-1 平成9年度 出水断層帯の調査フロー